

第182回 中小企業景況調査報告書

景況動向

2024年 10月～12月期 実績

2025年 1月～ 3月期 見通し

2025年 1月

岐阜県商工会連合会

中小企業景況調査

—— 2024年10月～12月 ——

はじめに

中小企業景況調査とは、最近のめまぐるしい経済環境の変化に即応するため、地域の経済動向等に関する諸事情を把握・分析し各商工会・企業へ情報を提供するとともに、経営対策の一助とするため、昭和54年度より四半期毎に実施しているものです。本報告書は、第182回調査結果（2024年10月～12月期）の概要です。原材料価格、仕入単価の上昇、需要の停滞など今後の景況動向に引き続き注視していく必要があります。

1. 調査方法

商工会の経営指導員等による訪問面接調査

2. 調査対象時期

2024年10～12月を対象とし、調査時点は2024年12月1日とした。

3. 調査対象商工会〔商工会コード順〕

2024年度の調査対象商工会は、次のとおりとする。

岐南町・山県市・垂井町・輪之内町・養老町・揖斐川町・
富加町・七宗町・八百津町・白川町・笠原町・萩原町・小坂町・
下呂・高山南・白川村 以上16商工会

4. 調査対象企業及び内訳

本調査における調査対象企業は、地区内の中小企業（建設業及び製造業については従業員300人以下又は、資本金3億円以下、小売業については、それぞれ50人以下又は、5千万円以下、サービス業については、それぞれ100人以下又は、5千万円以下）とする。

但し、おおむね80%は小規模企業（建設業及び製造業については従業員20人以下、小売・サービス業については5人以下の企業）とする。

(1) 対象地区・企業数

	岐 阜 県
対 象 地 区	16 商工会地区
対象企業数	240 企業
回答企業数	240 企業 (回答率 100.0%)

(2) 産業別構成

	回答企業数	構成比 (%)
製 造 業	48	20.0
建 設 業	32	13.3
小 売 業	66	27.5
サービス業	94	39.2
合 計	240	100.0

DIとは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各項目についての増加（上昇・好転・長期化）企業割合と減少（低下・悪化・短期化）企業割合の差を示すものです。

産業全体の業況D I 値は今期も改善 設備投資は企業数、件数ともに減少

〔県下商工会の概要〕

◆ 産 業 全 体 ◆

産業全体（全業種）の業況D I 値は、▲15.4で前期（2024年7月～9月期）と比べ0.4ポイント改善となった。

業種別の業況D I 値は、建設業6.2ポイント、サービス業2.2ポイントの改善、小売業変わらず、製造業6.2ポイントの悪化が見られた。

経営上の問題点は、全業種で「原材料価格や仕入単価の上昇」が引き続き一位となっており、「需要の停滞」、「従業員の確保難」、「消費者ニーズの変化への対応」が続いている。

（1）今期の概要

① 売上額（完成工事高）

全業種の売上D I 値は▲12.9で前期比2.9ポイント悪化。

業種別では、製造業、建設業、サービス業が改善、小売業が悪化となった。

② 採算（経常利益）

全業種の採算D I 値は▲16.3で前期比0.9ポイント悪化。

業種別では、製造業、建設業が改善、小売業、サービス業が悪化となった。

③ 資金繰り

全業種の資金繰りD I 値は▲11.3で前期比0.4ポイント改善。

業種別では、製造業、建設業が悪化、小売業、サービス業が改善となった。

④ 設備投資

設備投資は、31企業42件で前期比12企業、14件の減少となった。

⑤ 経営上の問題点

全体として、「原材料価格の上昇」「仕入単価の上昇」などが引き続き大きく影響している。

（2）来期の見通し

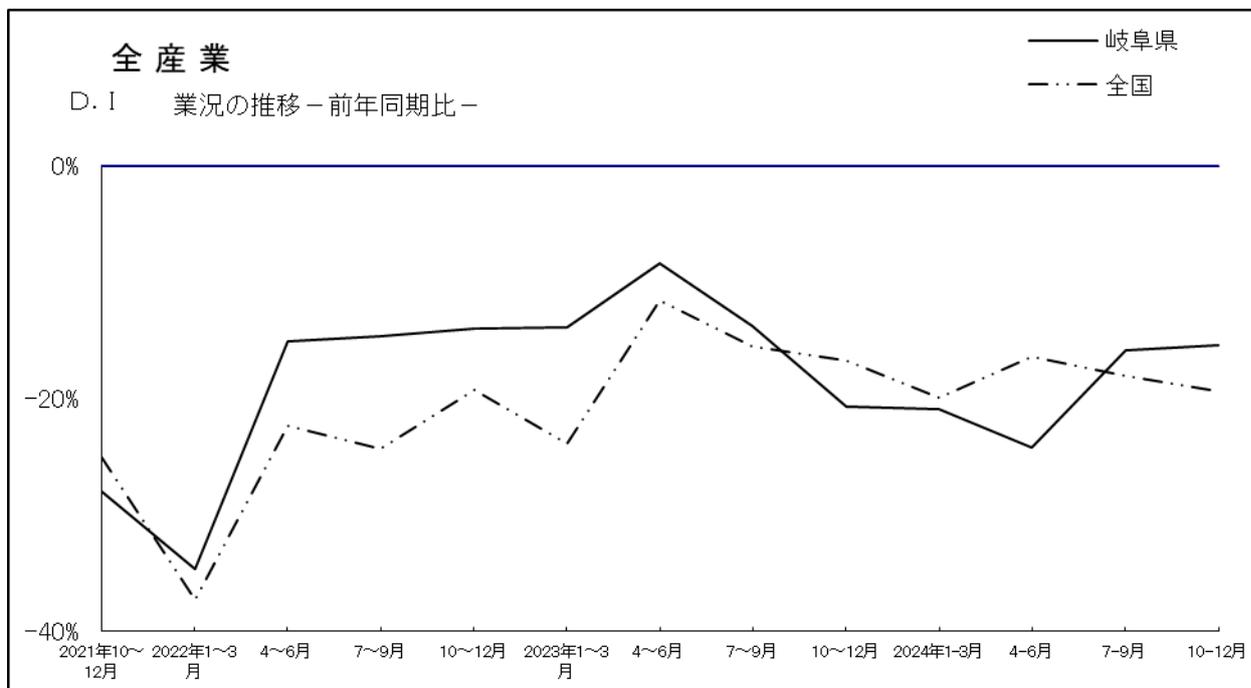
① 全産業の業況D I 値は▲15.8で0.4ポイント悪化の見通し。

業種別では、製造業、小売業が改善、建設業、サービス業が悪化の見通し。

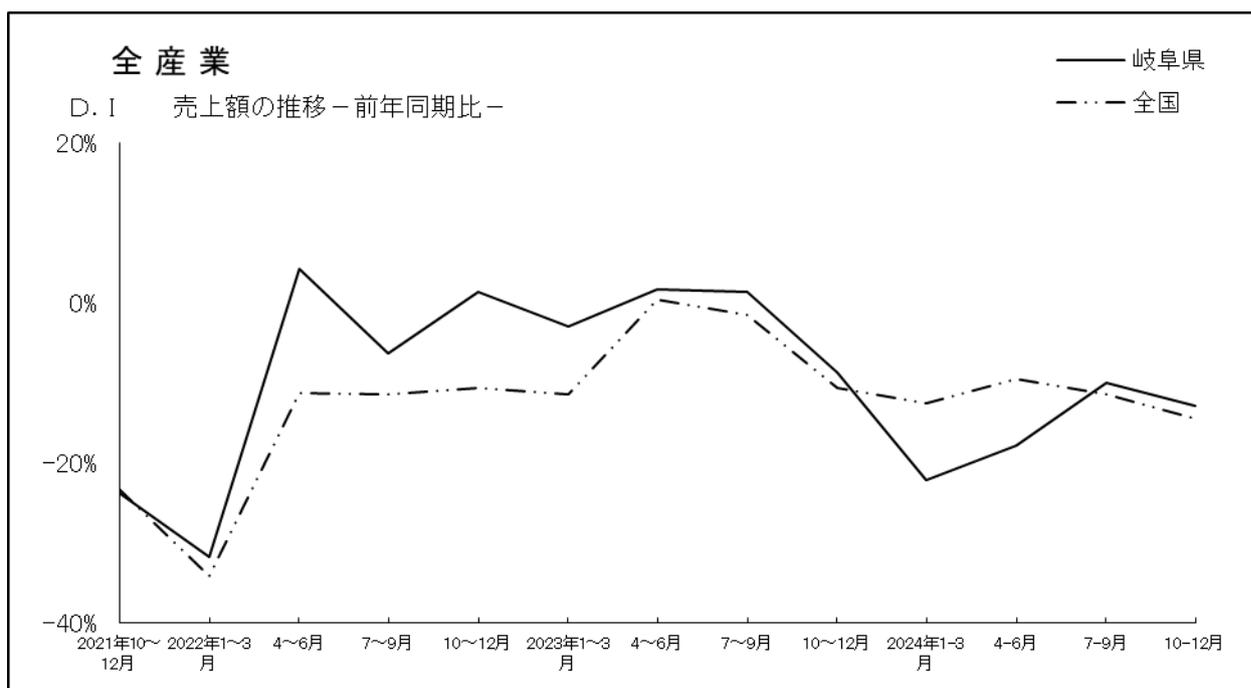
② 設備投資

27 企業 44 件の設備投資を計画しており、今期に比べ 4 企業の減少、2 件の増加の見通し。

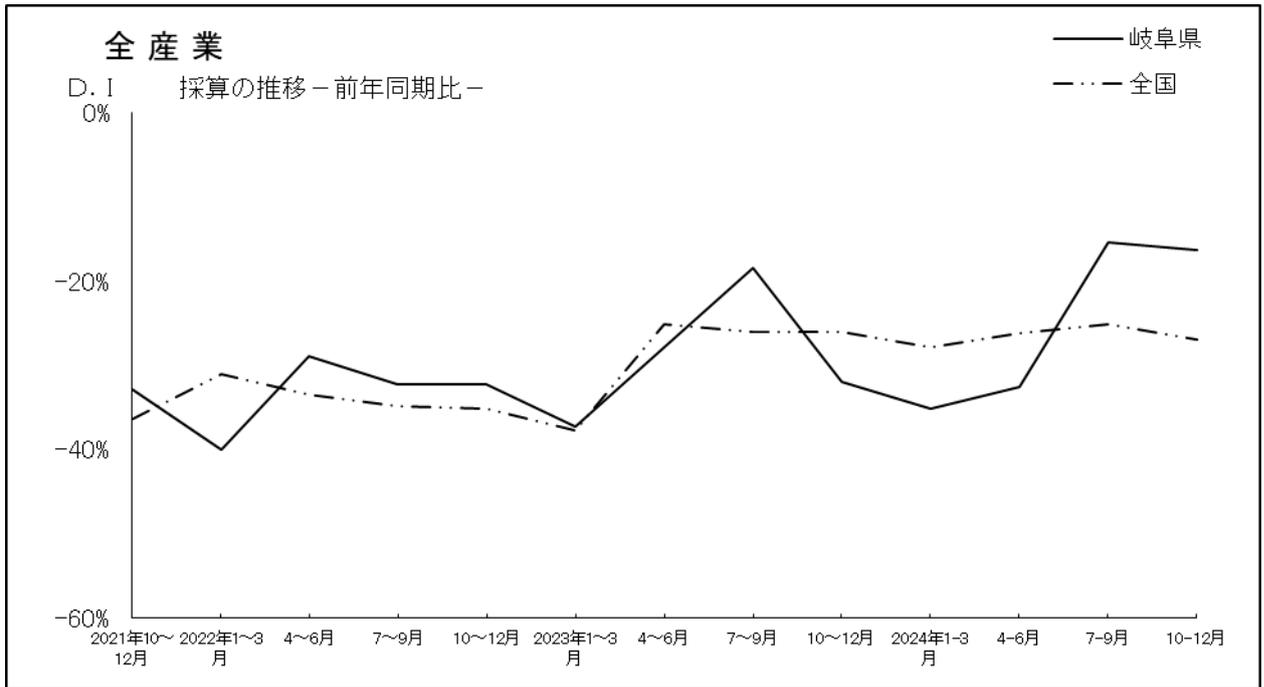
【G1-1】 産業全体 D I : 業況の推移 (岐阜県・全国)



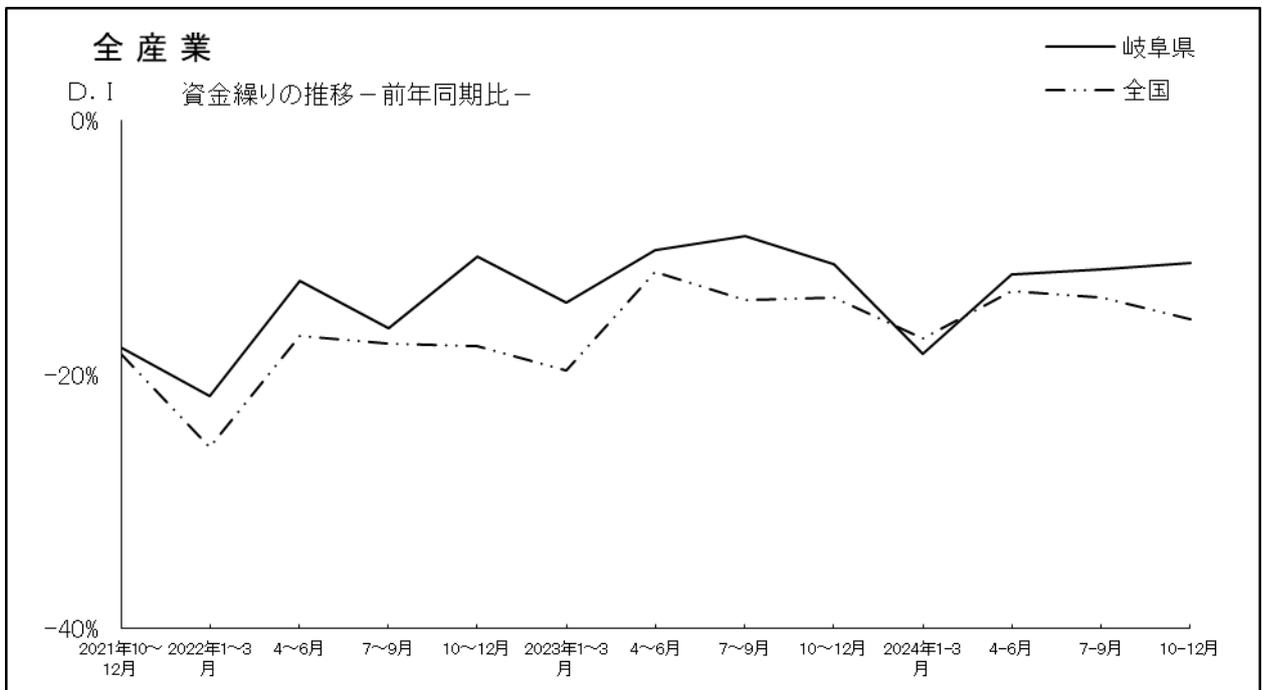
【G1-2】 産業全体 D I : 売上高の推移 (岐阜県・全国)



【G1-3】 産業全体D I：採算の推移（岐阜県・全国）】



【G1-4】 産業全体D I：資金繰りの推移（岐阜県・全国）】



業況、資金繰りは悪化、売上、採算は改善 来期はすべてのD I 値が改善の見通し

I 製 造 業

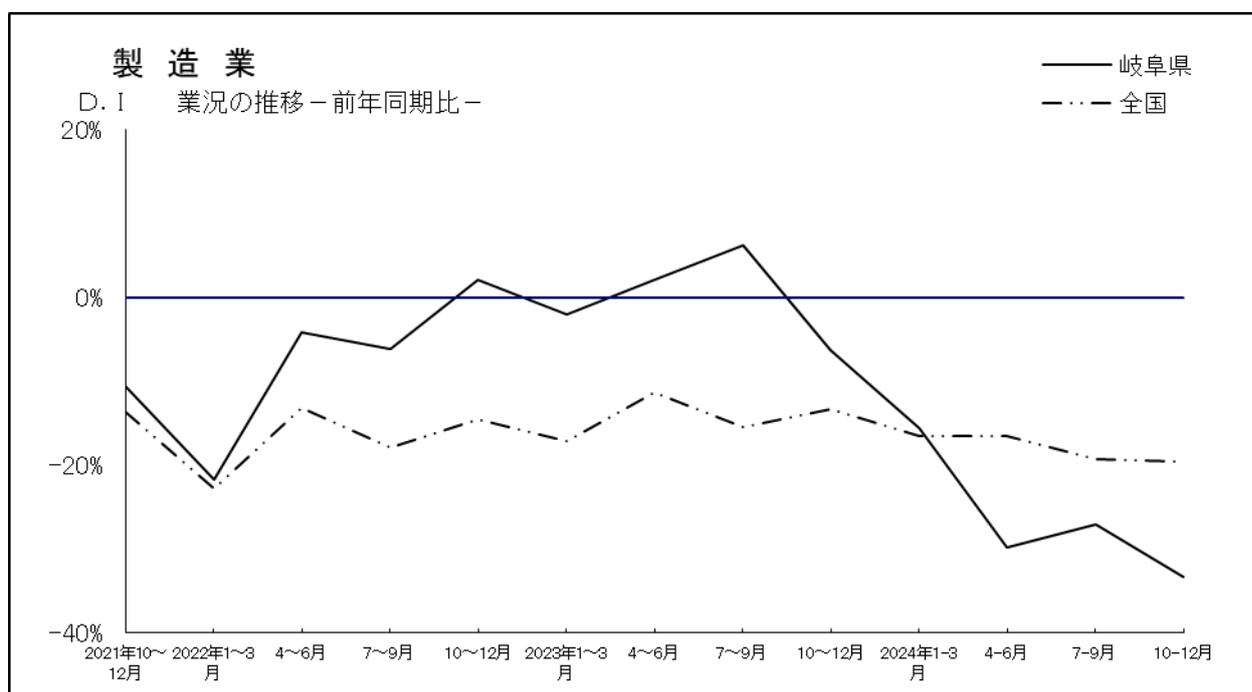
前年同期比の業況D I 値は、▲33.3で前期に比べ6.2ポイント悪化した。
売上D I : ▲22.9で2.1ポイント、採算D I : ▲25.0で2.1ポイントの改善、資金繰りD I : ▲20.8で4.1ポイントの悪化となった。

設備投資は、8企業13件で前期比1企業減少、1件増加。

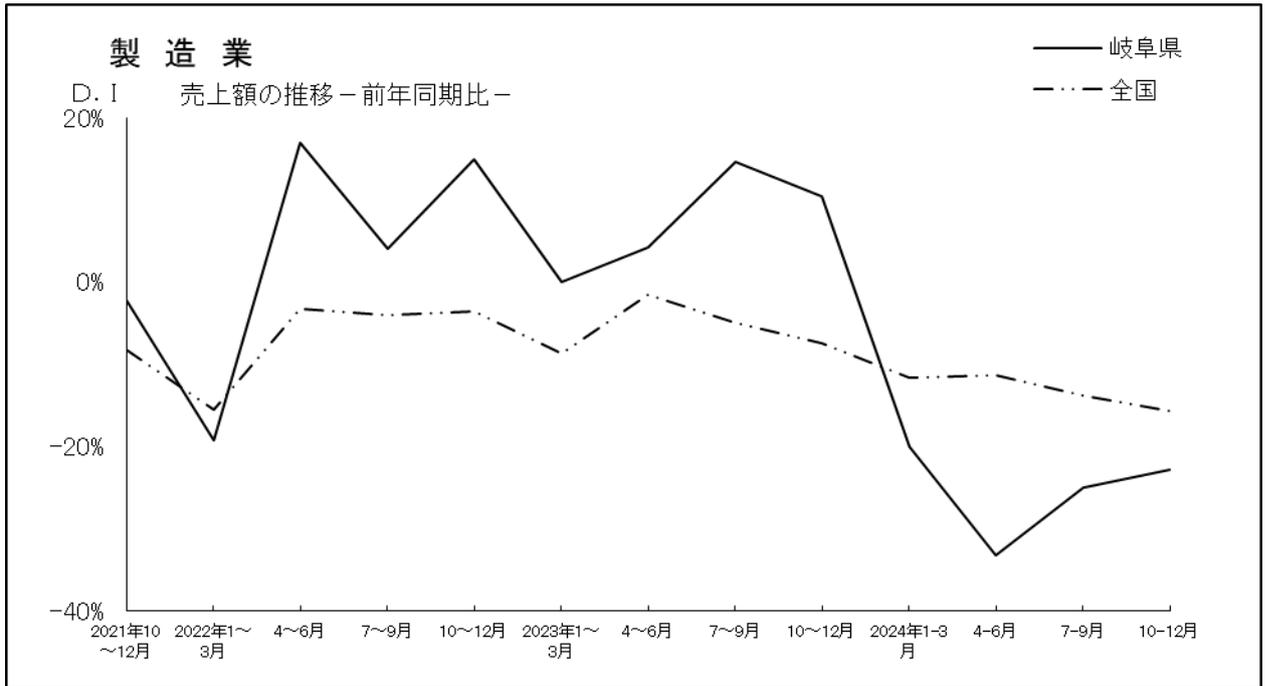
経営上の問題点は、前期に引き続き「原材料価格の上昇」が36.4%でトップ、次いで「需要の停滞」が22.7%となっている。

来期は、業況・売上・採算・資金繰りのすべてにおいて改善の見通し。
設備投資は6企業9件の計画であり、今期に比べ2企業、4件減少の見通しである。

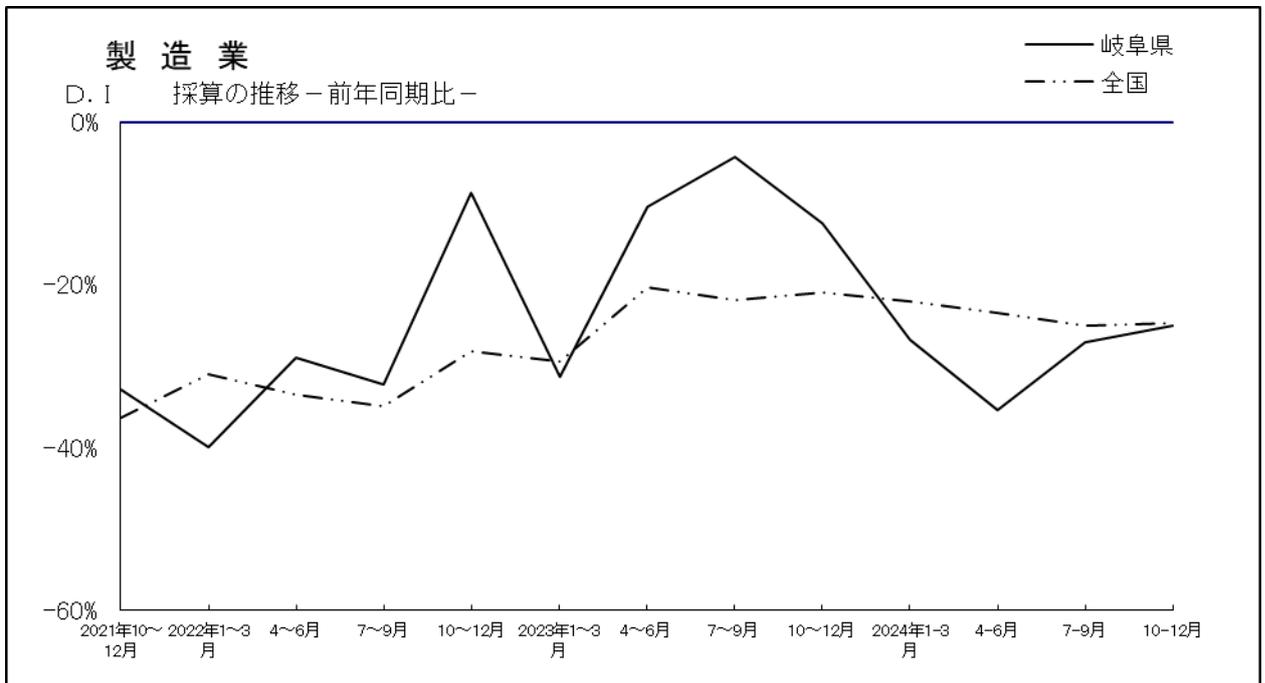
【G2-1】 製造業D I : 業況の推移



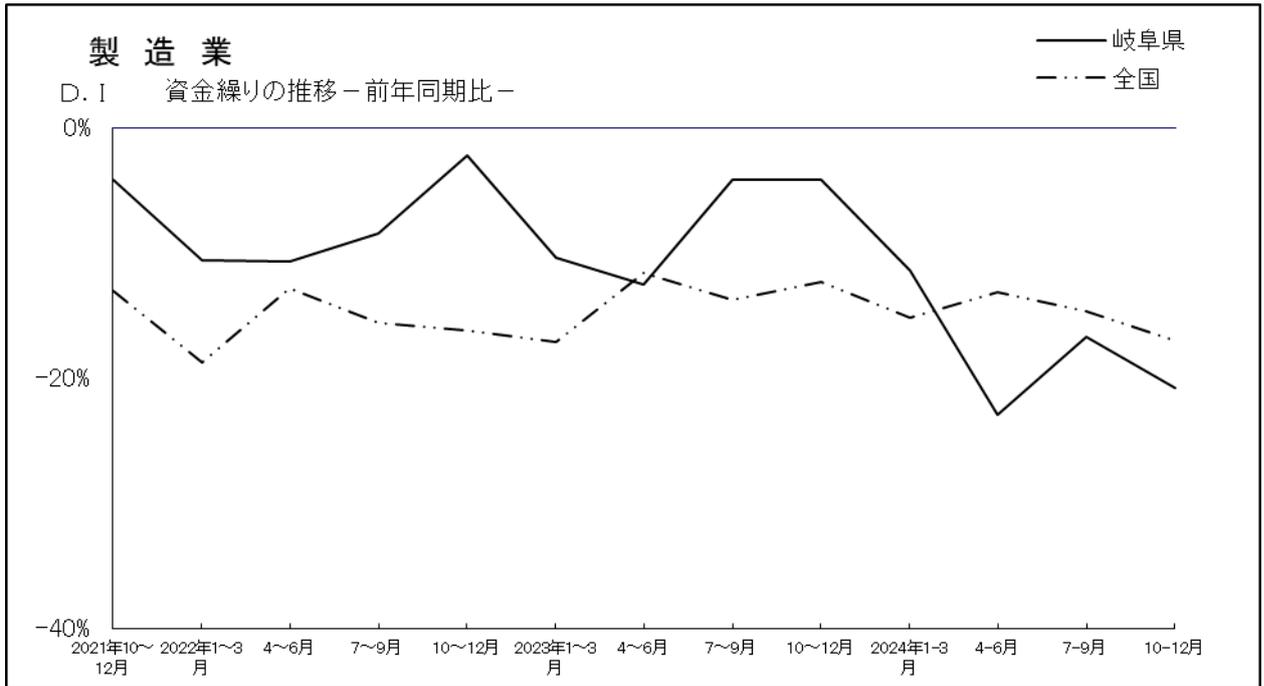
【G2-2】 製造業 D I : 売上額の推移



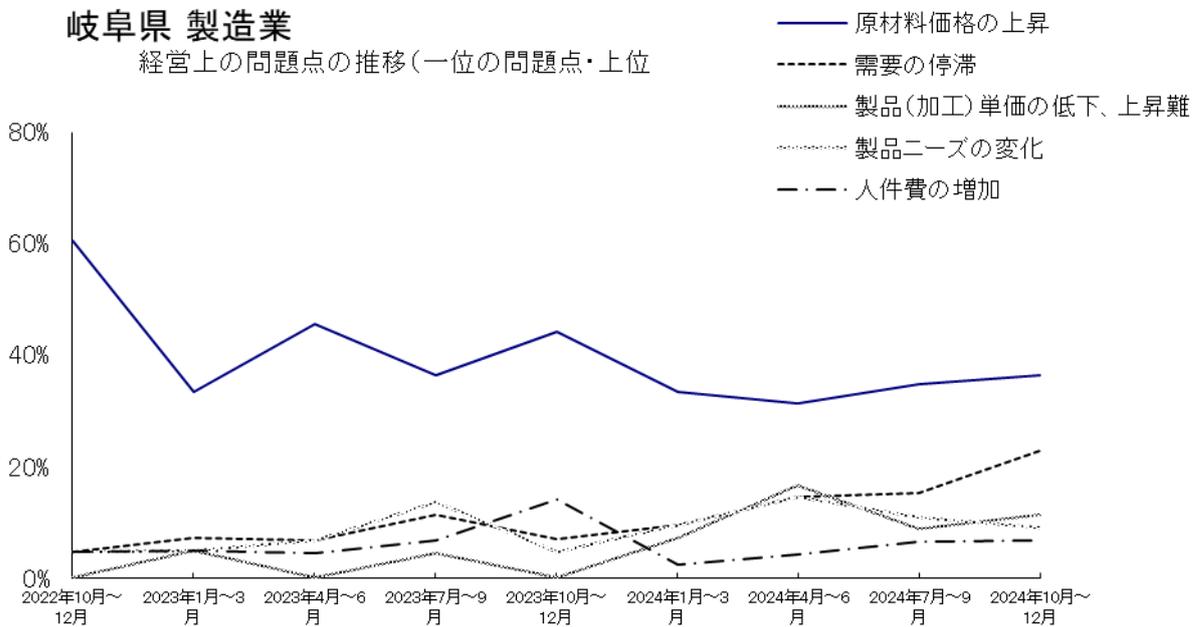
【G2-3】 製造業 D I : 採算の推移



【G2-4】 製造業 D I : 資金繰りの推移



【G2-5】 製造業 : 「経営上の問題点」の推移

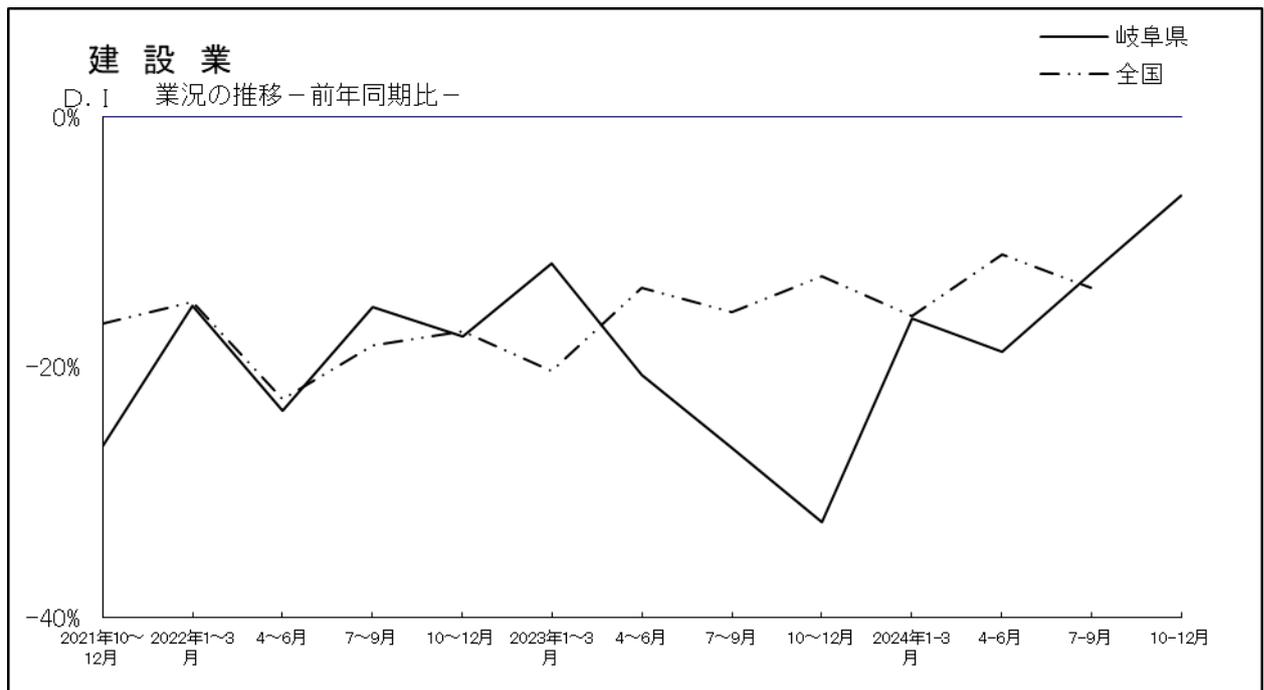


業況、売上、採算D I 値が改善 来期はすべてのD I 値が悪化の見通し

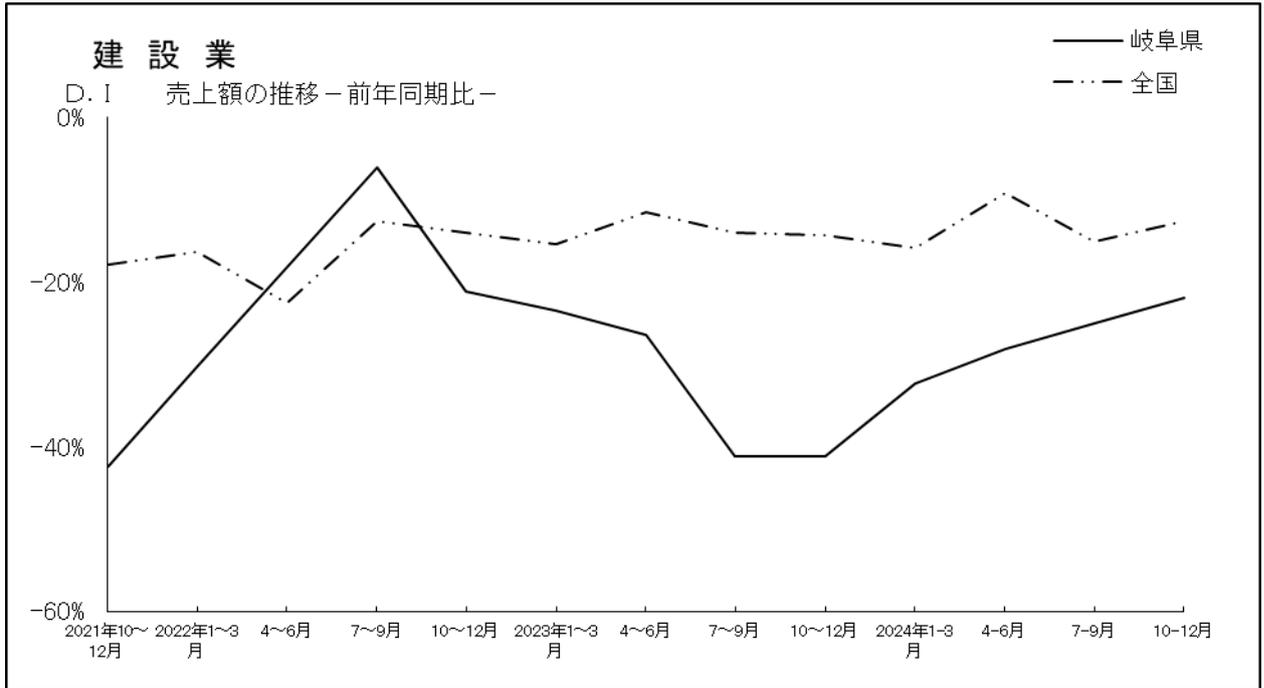
Ⅱ 建 設 業

前年同期比の業況D I 値は、▲6.3で前期に比べ6.2ポイント改善した。
 売上D I : ▲21.9で前期に比べ3.1ポイント、採算D I : ▲9.4で3.1
 ポイントの改善、資金繰りD I : ▲9.4で3.1ポイント悪化となった。
 設備投資は、5企業7件となり前期比5企業、6件減少。
 経営上の問題点は、前期と変わらず「材料価格の上昇」が37.9%、「従
 業員の確保難」が17.2%と上位を占めている。
 来期は、すべてのDI 値が悪化の見通し。設備投資は6企業11件の計画
 で今期に比べ1企業、4件増加の見通しである。

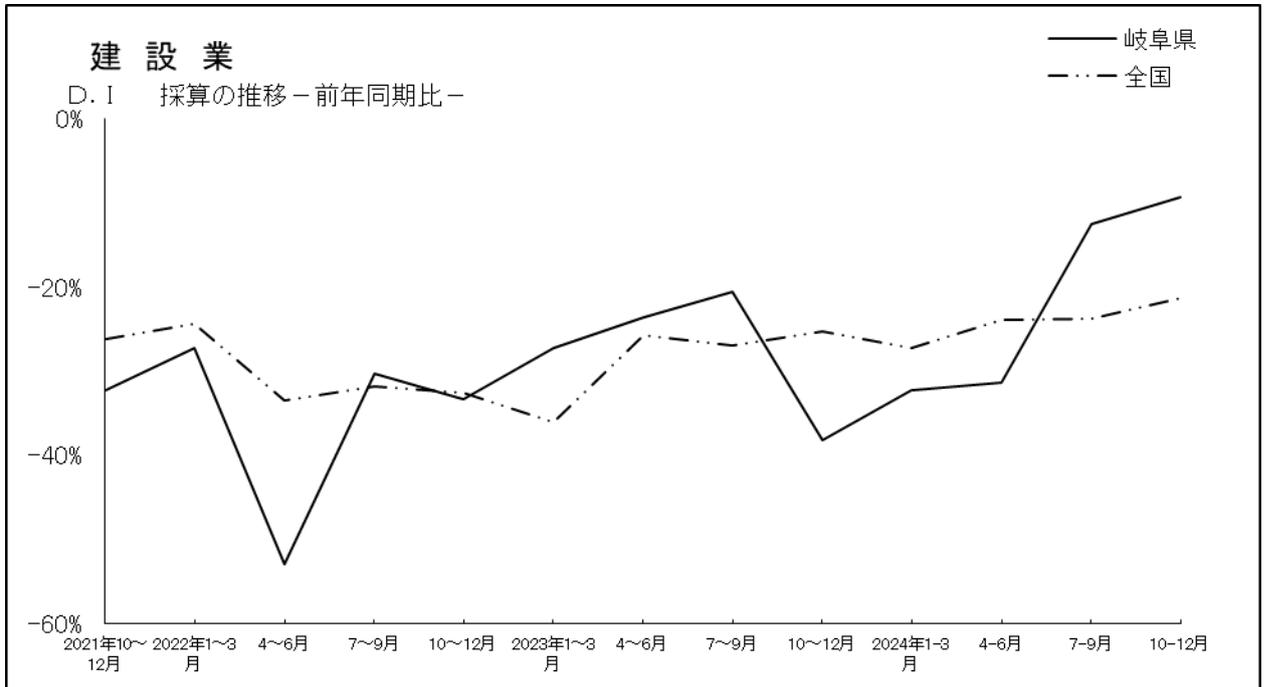
【G3-1】建設業D I : 業況の推移



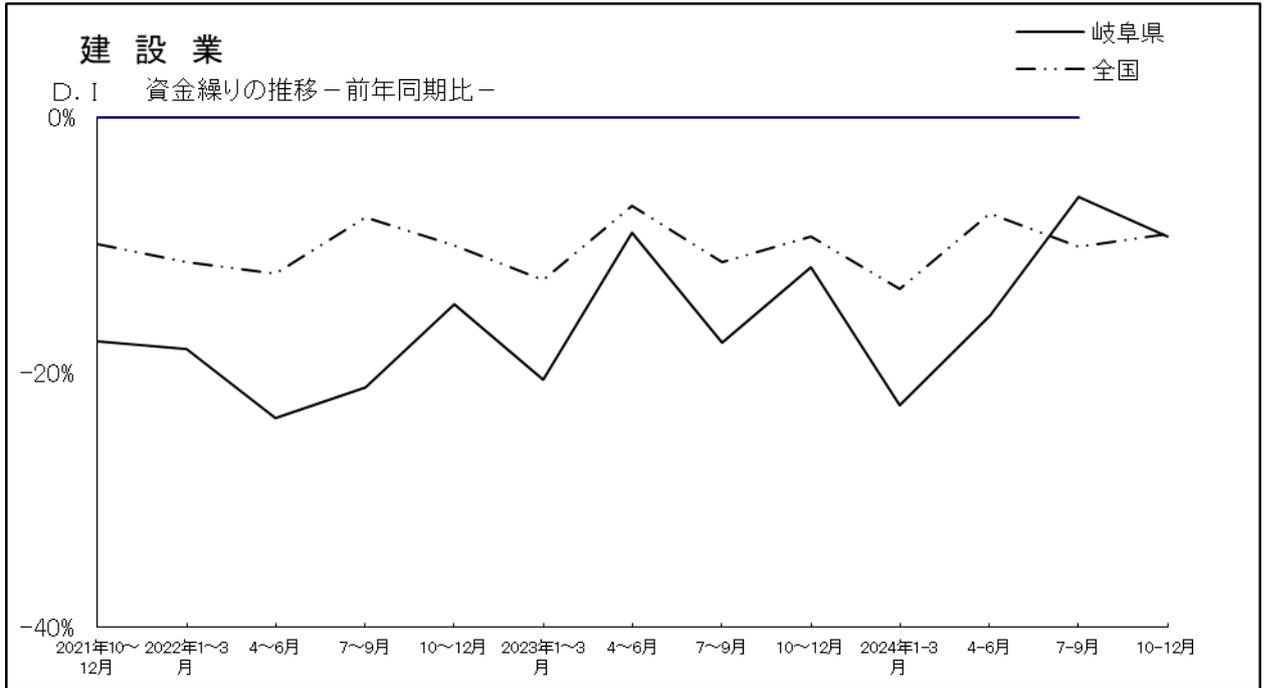
【G3-2】建設業D I：売上額の推移



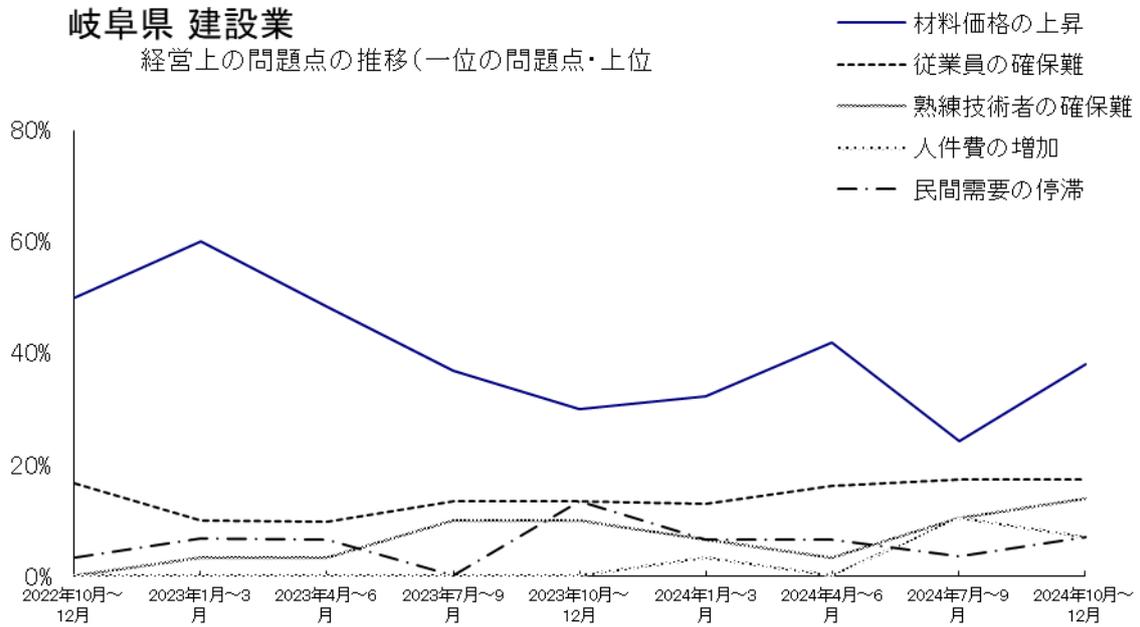
【G3-3】建設業D I：採算の推移



【G3-4】建設業D I：資金繰りの推移



【G3-5】建設業：「経営上の問題点」の推移



資金繰りD I 値のみ改善 設備投資は今期、来期ともに減少

Ⅲ 小 売 業

前年同期比の業況D I 値は、▲25.8で前期と変わらず。

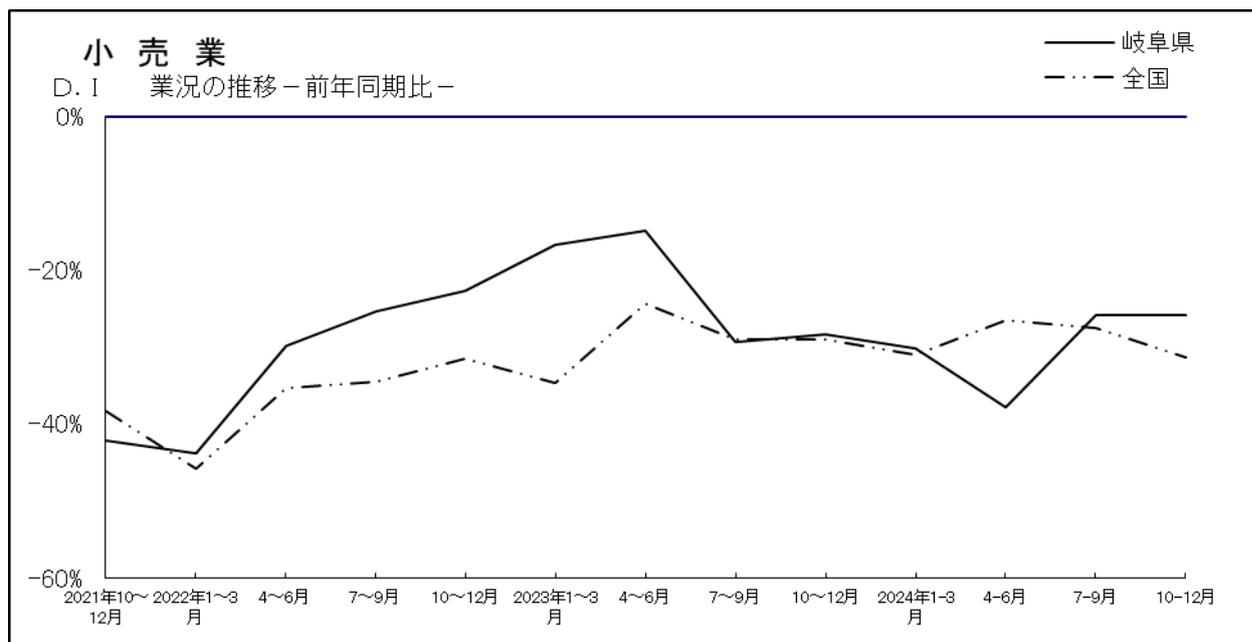
売上D I：▲28.8で15.2ポイント、採算D I：▲25.8で3.1ポイント悪化、資金繰りD I：▲13.6で3.1ポイント改善となった。

設備投資は、7企業7件で前期比2企業、2件減少。

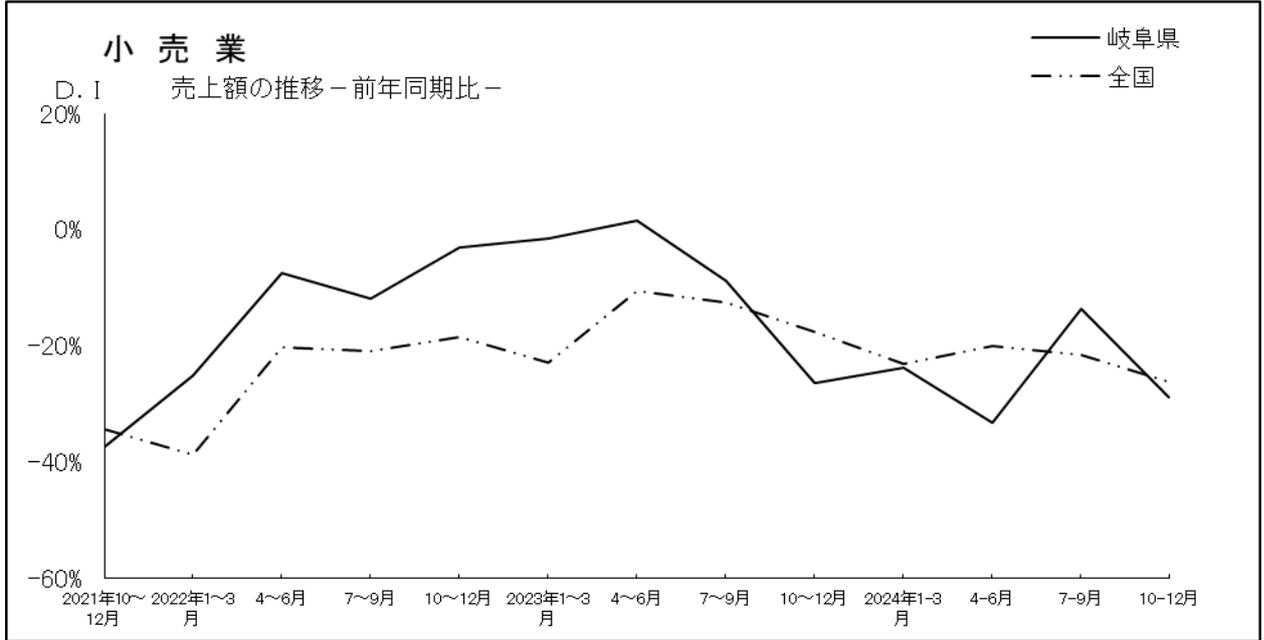
経営上の問題点は、「仕入単価の上昇」が17.7%で前期に続きトップ、「消費者ニーズの変化への対応」が14.5%と続いた。

来期は、資金繰りのD I 値のみ悪化、その他は改善の見通し。設備投資は6企業6件の計画で、今期に比べ1企業、1件減少の見通しである。

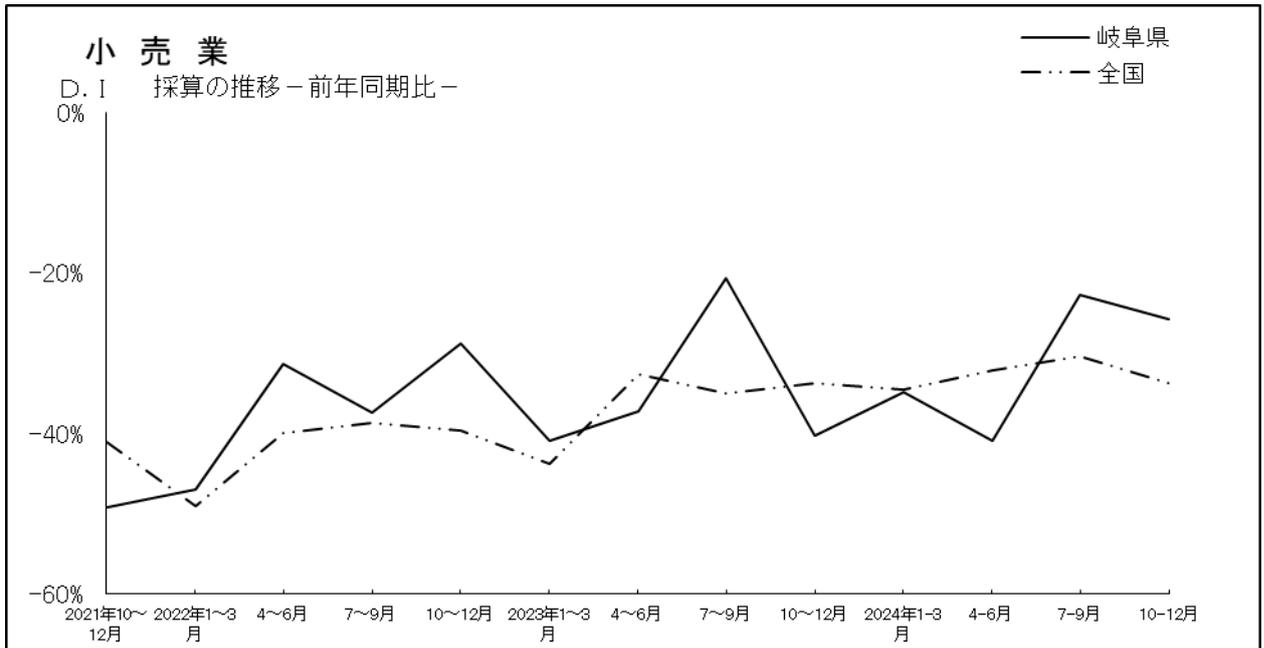
【G4-1】小売業D I：業況の推移



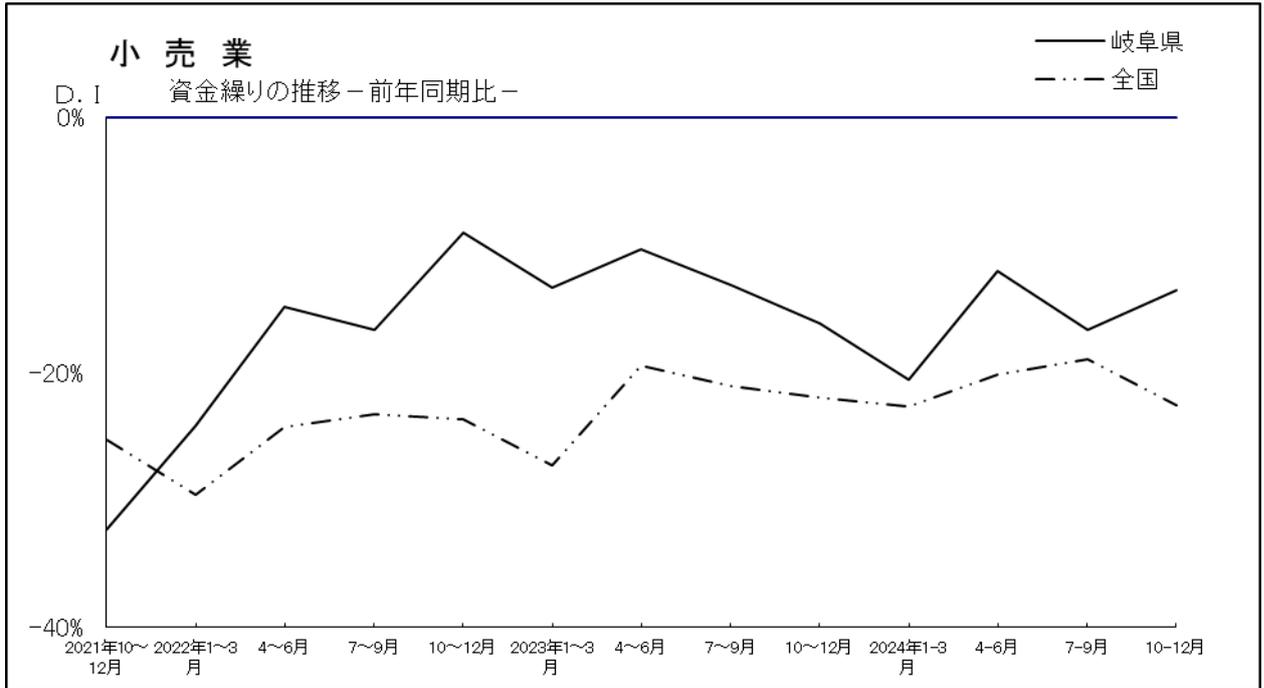
【G4-2】小売業D I：売上額の推移



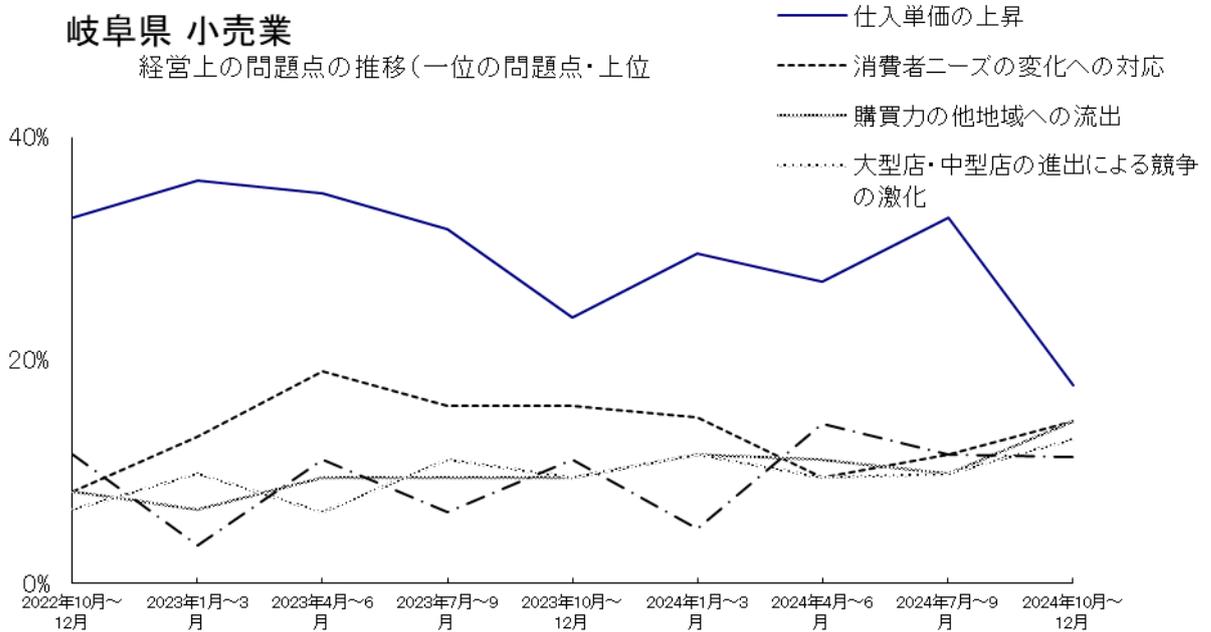
【G4-3】小売業D I：採算の推移



【G4-4】小売業D I：資金繰りの推移



【G4-5】小売業：「経営上の問題点」の推移



採算D I 値のみ悪化 来期はすべてのD I 値で悪化見通し

Ⅳ サービス業

前年同期比の業況D I 値は、▲2.1で2.2ポイント改善。

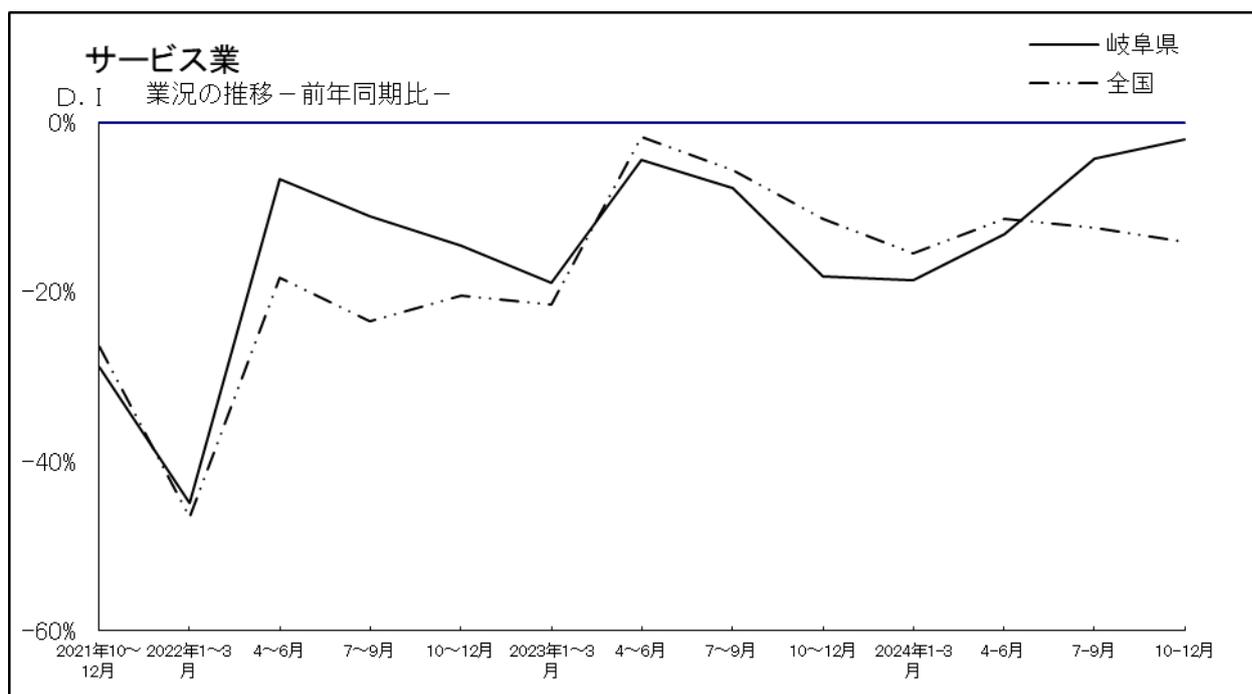
売上D I : 6.4で1.1ポイント、資金繰りD I : ▲5.3で2.1ポイントの改善、採算D I : ▲7.4で2.1ポイントの悪化となった。

設備投資は、11企業15件で前期比4企業、7件減少。

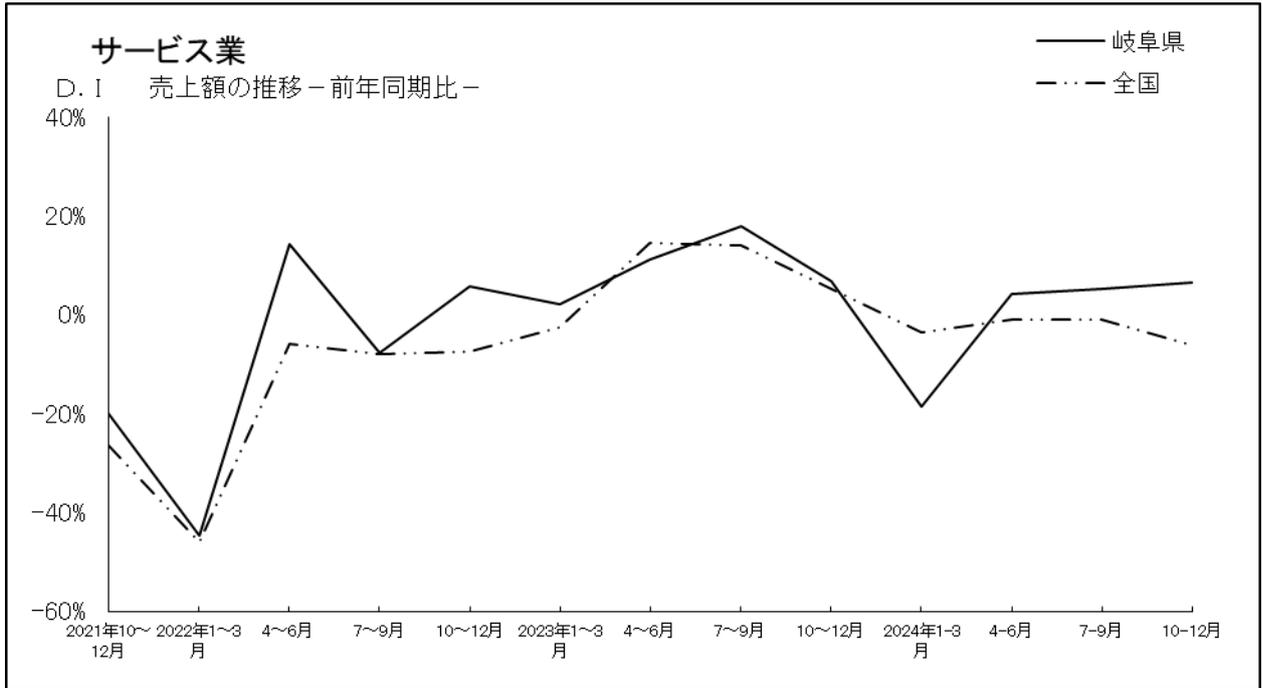
経営上の問題点は、「材料等仕入単価の上昇」が39.0%でトップ、次いで「人件費以外の経費の増加」が9.1%であった。

来期は、すべてのD I 値で悪化の見通し。設備投資は9企業18件の計画で、今期に比べ2企業減少、3件増加の見通しである。

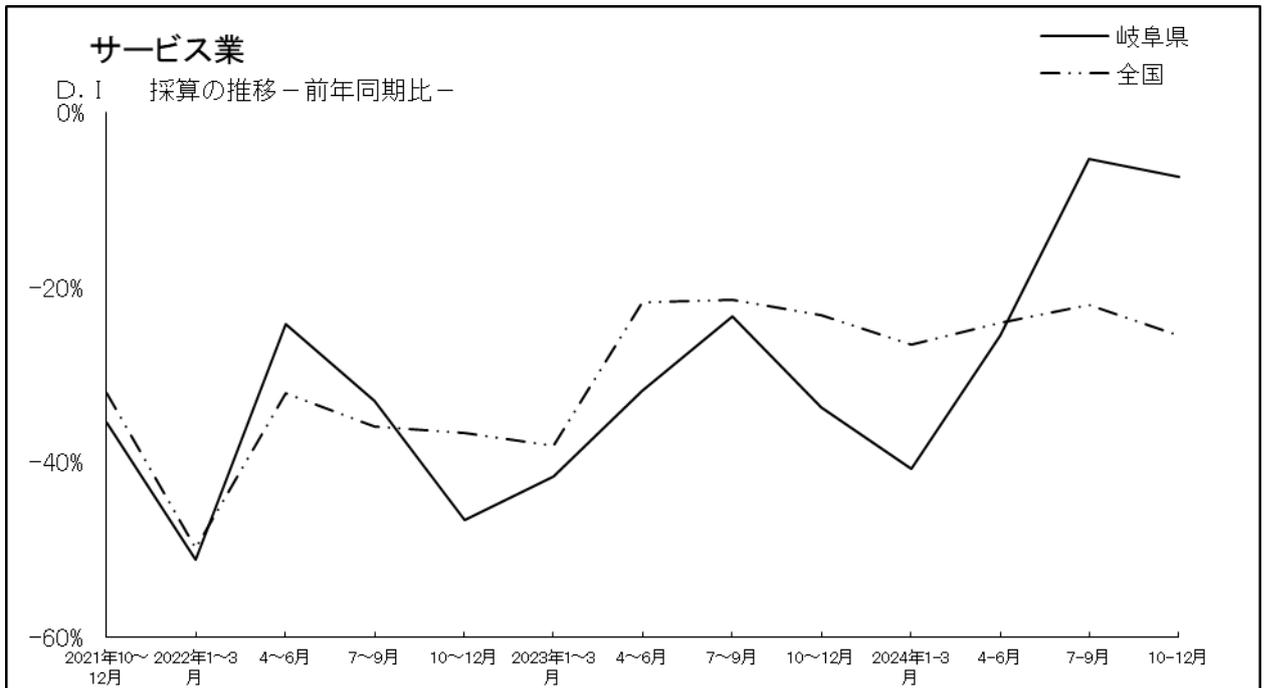
【G5-1】 サービス業D I : 業況の推移



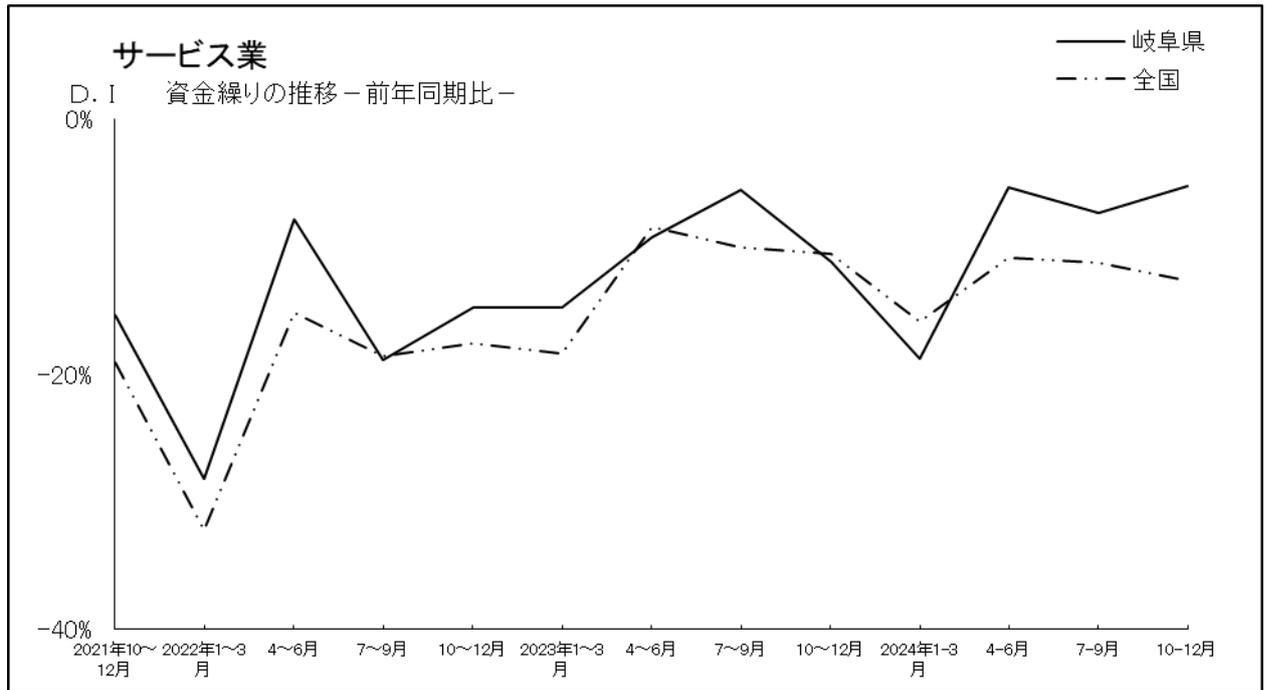
【G5-2】 サービス業D I：売上額の推移



【G5-3】 サービス業D I：採算の推移



【G5-4】 サービス業D I：資金繰りの推移



【G5-5】 サービス業：「経営上の問題点」の推移

